

港区 社会参加に関する調査 調査報告書（概要版）

令和 6（2024）年 3 月



目 次

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象・方法・期間・回収率等.....	1
(3) 調査の精度	1
(4) 「ひきこもり」の定義.....	2
2. 調査結果の概要	3
3. 調査の主な結果	5
(1) 回答設問全体	5
(2) 回答者本人がひきこもりの該当者.....	6
(3) 同居人がひきこもりの該当者.....	8
4. 類似設問の比較（上位4回答）	10
(1) ひきこもりの状態になった年齢、きっかけについて.....	10
(2) ひきこもりの状態に関する相談状況について.....	11
(3) 相談をした結果や、相談するにあたっての要望等について.....	12
(4) 現在の状況や将来への不安について.....	13
(5) 自宅でよくしていること、交流状況について.....	14
5. 分析を終えて	15
(1) 相談できる場の創出.....	15
(2) 多様な行政サービスの提供.....	15

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

1. 調査概要

(1) 調査の目的

港区におけるひきこもりの状態にある区民の実態及びニーズを明らかにし、その支援策に関する基礎資料として活用することを目的として港区内の 60,000 世帯を対象に実施した。

(2) 調査対象・方法・期間・回収率等

項目	内容
調査対象	令和5年6月16日現在で港区内に登録されている住民基本台帳から無作為に抽出した 60,000 世帯
配布数（有効配布数）	60,000 世帯（57,975）
回収数	14,070 件 <回収数内訳> 【郵送】 7,977 件（56.7%） 【インターネット】 日本語 5,728 件（40.7%） 英語 240 件（1.7%） 中国語 94 件（0.7%） 韓国語 31 件（0.2%）
回収率（有効回収率）	23.5%（24.3%）
調査方法	調査票を郵送配布し、無記名による郵送回答またはインターネット回答により回収。インターネット回答は、英語、中国語、韓国語での回答が可能。 調査期間中に、対象者全員にお礼状兼回答協力依頼の手紙を1回送付。
調査期間	令和5年7月14日（金）～令和5年8月4日（金）
調査実施機関	株式会社 創建

(3) 調査の精度

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数（n=回答者数）、回答の比率（p）によって誤差幅が異なる（下表は p=0.5 の場合）。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N : 母集団（港区の全世帯数）
n : サンプル数（有効回答数）
p : 回答比率（1つの選択肢に対して得られた回答者の割合）
1.96 : 信頼率 95%と設定した場合の定数（調査の母集団に同じ設問をしても、統計学的には 95%の確率で同じ回答が得られるというもの）

回答比率 (p) / 回答者数 (n)	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
20,000	±0.34%	±0.45%	±0.52%	±0.55%	±0.57%
15,000	±0.42%	±0.55%	±0.64%	±0.68%	±0.69%
14,070	±0.43%	±0.58%	±0.66%	±0.71%	±0.72%
10,000	±0.54%	±0.72%	±0.82%	±0.88%	±0.89%
5,000	±0.80%	±1.06%	±1.22%	±1.30%	±1.33%

(4) 「ひきこもり」の定義

本報告書では、内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査（令和4年度）」における「ひきこもり」の定義を参考にしながら対象者を抽出したところ、158世帯でひきこもりの該当者が存在するという結果となった。

内閣府の調査項目	港区調査の設問と選択肢
外出頻度が次のいずれかを選択 1 趣味の用事のときだけ外出する 2 近所のコンビニなどには出かける 3 自室からは出るが、家からは出ない 4 自室からほとんど出ない	(問 27・問 47) 現在の外出頻度はどのくらいですか？ 6 普段は自宅にいるが、自分の趣味に関する用事の時に週1回程度外出する } 準ひきこもり 7 普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける } 8 同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない } 狭義のひきこもり 9 同居人以外の方が自宅にいない時は自室から出るが、自宅からは出ない } 10 自室からほとんど出ない }

かつ

現在の状態が「6か月以上」と回答	(問 11) 問 8（ひきこもり）の状態の期間はどのくらいですか？ 1 6か月～1年未満 2 1年～2年未満 3 2年～3年未満 4 3年～5年未満 5 5年～7年未満 6 7年～10年未満 7 10年～15年未満 8 15年～20年未満 9 20年～25年未満 10 25年～30年未満 11 30年以上
------------------	---

かつ

次の類型1～3のいずれにも該当しない者	【類型1】 現在の状態になった主な理由が、「統合失調症」又は身体的病気の病名を記入	(問 18・問 41) 問 8の状態になったきっかけは何ですか？ 以下を選択し、かつ「統合失調症」又は身体的病気の病名を記入 9 病気 15 その他	
	【類型2】 最近6か月間に、家族以外の人と「よく会話をした」又は「ときどき会話をした」を選択	(問 35・問 50) 交流状況について教えてください。 2 趣味や遊びのために人と会うことはある 4 民間を含む相談窓口・支援機関との交流がある 7 通院で医師等と会話をする	
	①～③のいずれかに該当	【類型2-①】 「妊娠したこと」「介護・看護を担うことになったこと」「その他」のうち、出産・育児をしている旨を記入	(問 18・問 41) 問 8の状態になったきっかけは何ですか？ 10 妊娠したこと 13 介護・看護を担うことになったこと 12 育児に専念することになったこと 15 その他を選択し、出産・育児をしている旨を記入
		【類型2-②】 普段ご自宅にいるときは、どんなことに時間を使っているかの問いの回答が「家事をする」「育児をする」「介護・看護をする」のいずれか	(問 33・問 49) 自宅でよくしていることをご回答ください。 9 家事をする 10 育児をする 11 介護・看護をする
		【類型2-③】 現在の仕事が「会社などの役員」、「自営業・自由業」、「家族従業者・内職」を選択	(問 6・問 39) 現在の就学・就労状況をお答えください。 「3 勤めている（自営業・フリーランス）」を選択
【類型3】 現在の仕事が「会社などの役員」、「自営業・自由業」、「家族従業者・内職」を選択	(問 18・問 41) 問 8の状態になったきっかけは何ですか？ 「15 その他（ ）」を選択し、自宅で仕事をしている旨を回答		

2. 調査結果の概要

【全体】

- ひきこもりの該当者を抱えている世帯は 158 世帯（回答全体の 1.1%）である（問 8）。ひきこもりの該当者のうち、男性が 36.7%、女性が 62.0%となっている（問 10）。年齢別では 65 歳以上が該当者全体の 53.1%を占めており、特に 70 歳以上が 46.8%となっている（問 9）など、ひきこもりの該当者は高齢者が多かった。一方、39 歳以下は 27 世帯（同 17.0%、回答全体の 0.19%）と少なかった。
- ひきこもりの状態になってからの期間は 5 年未満が全体の 6 割程度を占め、特に 3～5 年が 22.2%となっている（問 11）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は 5 年未満の割合が全体の約 6 割、3 年～5 年未満が 23.5%となっている。65 歳以上は 5 年未満が全体の約 6 割、3 年～5 年未満が 21.4%となっている。70 歳以上は、5 年未満が全体の 5 割台半ば、3 年～5 年未満が 21.6%となっている。75 歳以上は、5 年未満が全体の約 5 割、3 年～5 年未満が 18.6%となっている。
- ひきこもりの該当者のうち、6 割超の人が医療機関を受診している（問 12）。さらに受診した人のうち 6 割超が現在も通院している（問 14）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、48.5%が受診し、63.6%が現在も通院している。65 歳以上は、71.4%が受診し、61.7%が現在も通院している。70 歳以上は、71.6%が受診し、56.6%が現在も通院している。75 歳以上は、76.3%が受診し、55.6%が現在も通院している。
- ひきこもりの該当者が本人の回答は 68 人（43.0%）、ひきこもりの該当者が同居人の回答は 90 人（57.0%）である（問 16）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 32.4%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 67.6%である。65 歳以上は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 54.8%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 45.2%である。70 歳以上は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 52.7%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 47.3%である。75 歳以上は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 47.5%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 52.5%である。

【回答者本人がひきこもりの該当者】

- ひきこもりの状態になった年齢は、65 歳以上が半数以上を占め、特に 75 歳以上が 35.3%で一番を占めている（問 17）。
- ひきこもりの状態になったきっかけは、「その他」（29.4%）を除くと、退職したことが最も多く、新型コロナウイルス蔓延の影響が続いている（問 18）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、退職したことによる影響が最も多い。65 歳以上・70 歳以上・75 歳以上は、いずれにおいても新型コロナウイルス蔓延の影響が最も多い。
- 現状について誰かに話や相談をした人は 38.2%であり、過半数が話や相談をしていない（問 19）。話や相談をした人の内、42.3%が「気持ちが楽になった」と回答している（問 22）。一方、話や相談をしていない理由として、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が突出して多く（問 23）、今後の相談意向についても、6 割台半ばが望んでいない（問 24）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、54.5%が相談しておらず、「相談できる相手がいなかったため」の割合が最も多い。今後の相談意向は、6 割台半ばが相談したいと考えている傾向にある。65 歳以上は、63.0%が相談しておらず、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が最も多い。今後の相談意向は「全く相談しようと思わない」が 60.9%となっている。

70歳以上は、56.4%が相談しておらず、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が最も多い。今後の相談意向は「全く相談しようと思わない」が59.0%となっている。75歳以上は、話や相談をした人としていない人が同じ割合であった。また、話や相談をしていない理由として、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が最も多い。今後の相談意向は「全く相談しようと思わない」が60.7%となっている。

相談した結果は、回答者の年齢によらず「気持ちが楽になった」が最も多い。

- ひきこもりの該当者が本人の場合は、約4割が不安を感じたことはないと考えている。その一方、生活費等の金銭的な不安や、このままの状態が良いのかといった不安も抱えている（問32）。回答者の年齢を区分した場合、15～64歳は、「生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安」が最も多い。65歳以上・70歳以上・75歳以上は、いずれにおいても「不安を感じたことがない」が最も多い。

【同居人がひきこもりの該当者】

- ひきこもりの該当者が配偶者である割合は35.6%と最も多く、配偶者・母・子で全体の約8割を占めている（問38）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64歳は、配偶者（41.3%）と子（32.6%）が突出している。65歳以上・70歳以上・75歳以上は、いずれにおいても母・配偶者の順で多い。
- ひきこもりの状態になった年齢は、「75歳以上」が24.4%と突出しているが、30代までが4割台半ばを占めており、比較的若い頃からひきこもりの状態になっている人が多い（問40）。
- ひきこもりの状態になったきっかけは、「その他」を除くと、学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと、不登校、学生時代のいじめなど、人間関係が契機となっている場合が比較的多い（問41）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64歳は「学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと」が多い。65歳以上・70歳以上・75歳以上は、いずれにおいても「新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと」が最も多い。
- 同居人の現状について誰かに話や相談をした人は53.3%であり（問42）、そのきっかけは同居人の現状や将来を案じてのことである（問43）。相談した結果、「気持ちが楽になった」「同居人の状態を変えたい気持ちが強くなった」と、相談したことで一定の前向きな心境変化が読み取れる（問45）。一方、相談していない理由は、「相談する必要性を感じられなかったため」、「相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思った」が多い（問46）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64歳は、話や相談をした人が47.8%であり、そのきっかけは「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」が86.4%、「同居人の今後の将来に不安を感じたため」72.7%と突出して多い。65歳以上と70歳以上は、話や相談をした人がそれぞれ55.3%、57.1%であり、そのきっかけは「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」「同居人の今後の将来に不安を感じたため」が多い。
75歳以上は、話や相談をした人が61.3%であり、そのきっかけは「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」が57.9%、「同居人の今後の将来に不安を感じたため」が42.1%と多い。
- 同居人の将来に対しては、「このままの状態が良いのかという不安」が最も多い（問48）。そして、60.0%が同居人の状態を変えたいと思っている（問51）。15～64歳、65歳以上、70歳以上、75歳以上の全ての年齢層で「このままの状態が良いのかという不安」が最も多く、15～64歳の年齢層では、69.6%が「同居人の状態を変えたいと思う」と回答している。一方、65歳以上、70歳以上、75歳以上ではそれぞれ50.0%、51.4%、48.4%が「同居人の状態を変えたいとは思わない」と回答をしており、高齢者層では、ひきこもりの該当者を変えることに前向きではない傾向がある。

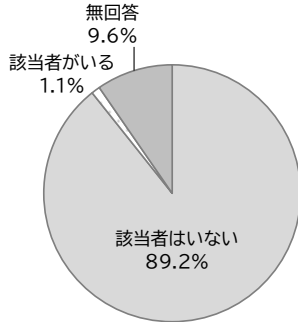
3. 調査の主な結果 (抜粋)

(1) 回答者全体

問8 ひきこもりの該当者数

「該当者がいる」が1.1% (158人)

(N=14,070)

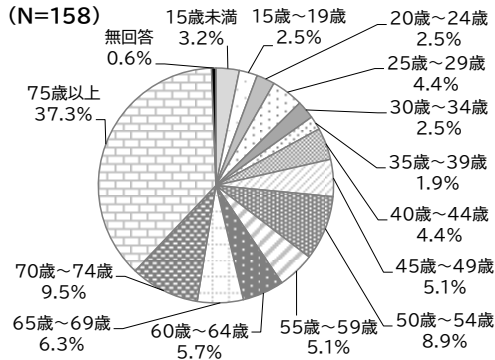


【ひきこもりの該当者の条件】

- ①自宅から外出をほとんどしない、または近所のコンビニやスーパー等の販売店、通院・趣味の用事の時のみ外出をする
- ②家族以外の人と直接の会話をしない、または家族以外の人との交流を避けている (①のコンビニやスーパー等の店員、医師・看護師等の医療機関受診時の会話等を除く)
- ③①から②の状態が6か月以上続いている

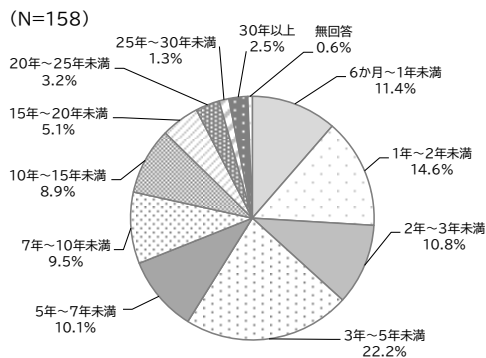
問9 ひきこもりの該当者の年齢

「75歳以上」が37.3%で最も多い。65歳以上の合計では53.1%、70歳以上の合計では46.8%、39歳以下の合計では17.0%



問11 ひきこもりの状態の期間

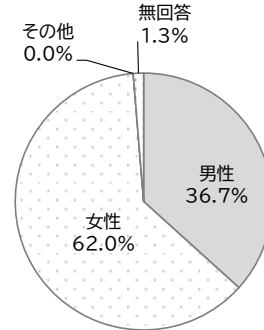
「3~5年」が22.2%で最も多い。5年未満の合計では59.0%



問10 ひきこもりの該当者の性別

「男性」が36.7%、「女性」が62.0%

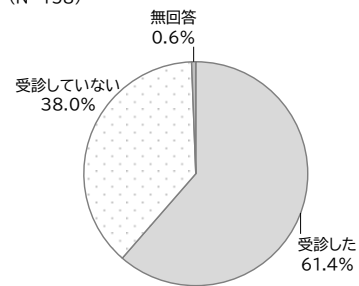
(N=158)



問12 ひきこもりの状態になってから医療機関を受診したか

「受診した」が61.4%、「受診していない」が38.0%

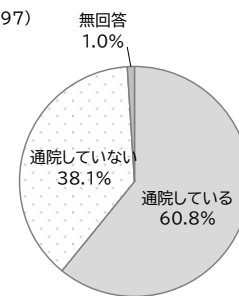
(N=158)



問14 現在も通院しているか

「通院している」が60.8%、「通院していない」が38.1%

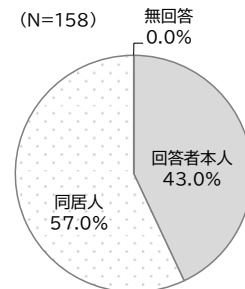
(N=97)



問16 ひきこもりの該当者が本人か同居人が

「回答者本人」が43.0%、「同居人」が57.0%

(N=158)

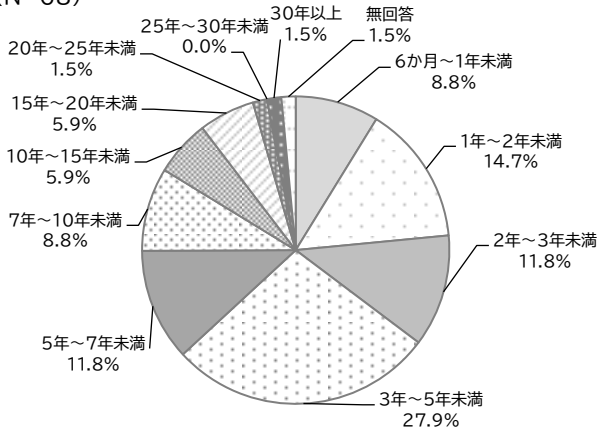


(2) 回答者本人がひきこもりの該当者

問 11 ひきこもりの状態の期間 (問 11 のうち、回答者本人に限定)

「3年～5年未満」が27.9%で最も多い。5年未満の合計では63.2%

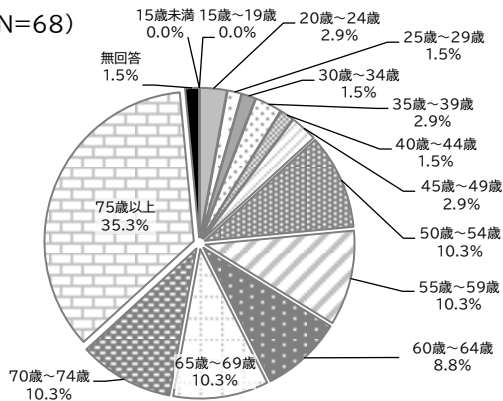
(N=68)



問 17 ひきこもりの状態になった頃の年齢

「75歳以上」が35.3%で最も多い。65歳以上の合計では55.9%

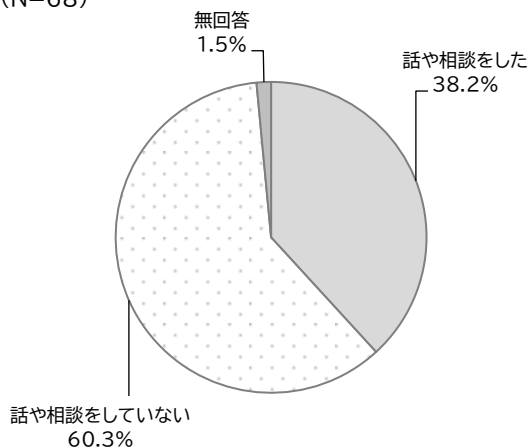
(N=68)



問 19 ひきこもりの状態について 誰かに話や相談をしたか

「話や相談をしていない」が60.3%、「話や相談をした」が38.2%

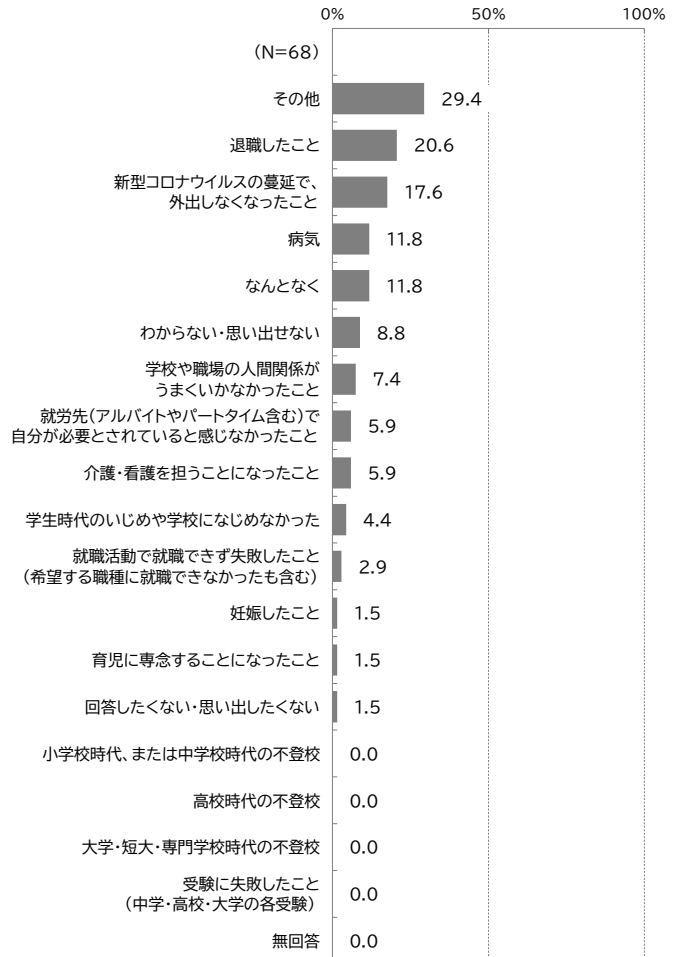
(N=68)



問 18 ひきこもりの状態になったきっかけ

「その他」が29.4%で最も多く、次いで「退職したこと」が20.6%、「新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと」が17.6%

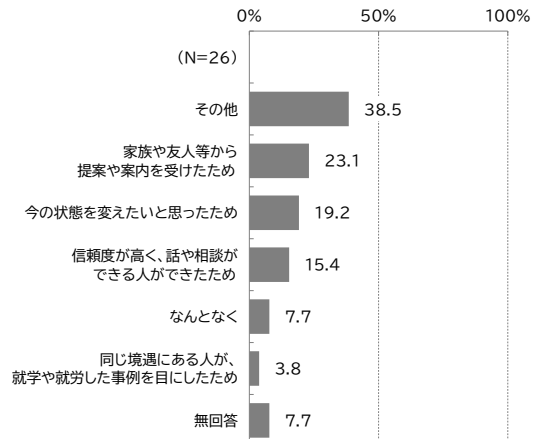
(N=68)



問 20 ひきこもりの状態について 話や相談をしたきっかけ

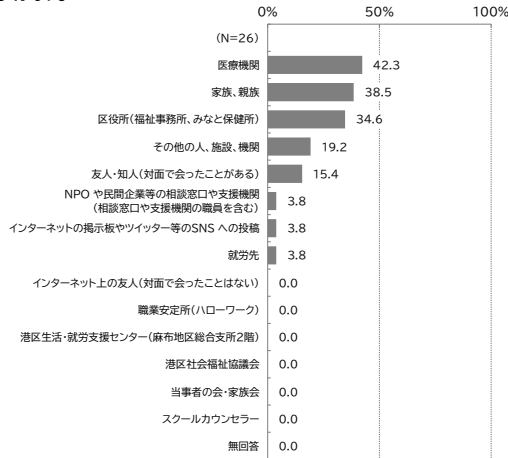
「その他」が38.5%で最も多く、次いで「家族や友人等から提案や案内を受けたため」が23.1%、「今の状態を変えたいと思ったため」が19.2%

(N=26)



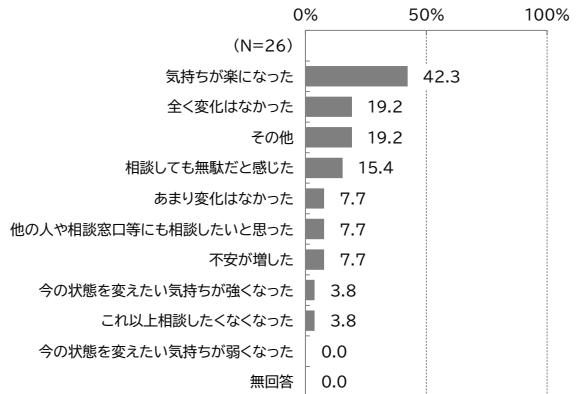
問 21 どこ（誰）に話や相談をしたか

「医療機関」が 42.3%で最も多く、次いで「家族、親族」が 38.5%、「区役所（福祉事務所、みなと保健所）」が 34.6%



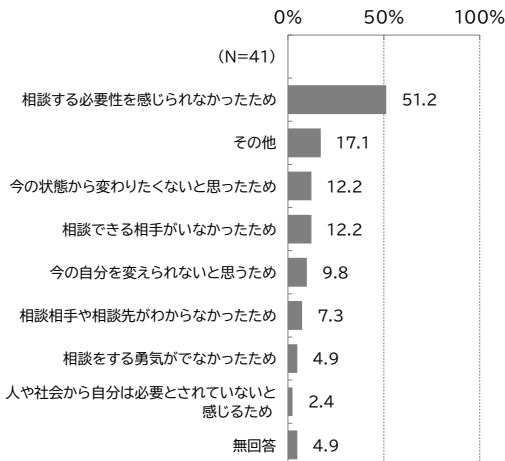
問 22 話や相談をした結果の心境変化

「気持ちが楽になった」が 42.3%で最も多く、次いで「全く変化はなかった」、「その他」がそれぞれ 19.2%



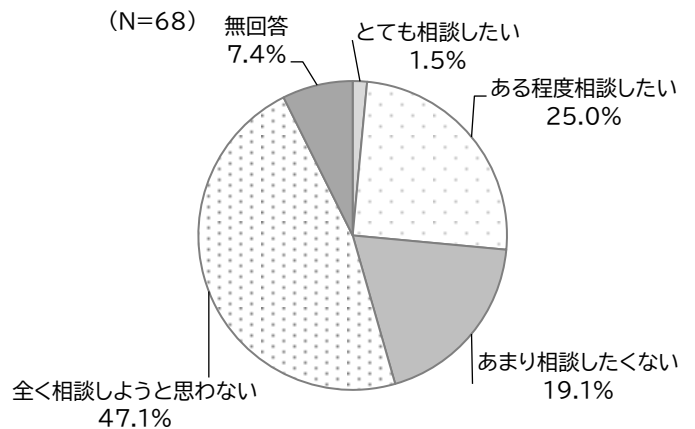
問 23 話や相談をしていない理由

「相談する必要性を感じられなかったため」が 51.2%で最も多く、次いで「その他」が 17.1%、「今の状態から変わりたくないと思ったため」、「相談できる相手がいなかったため」がそれぞれ 12.2%



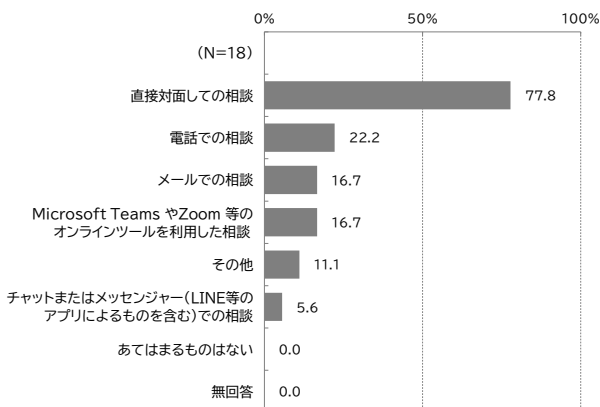
問 24 現在の状況を話や相談をしたいか

「全く相談しようと思わない」が 47.1%で最も多く、「あまり相談したくない」の 19.1%と合わせると 66.2%が相談を望んでいない



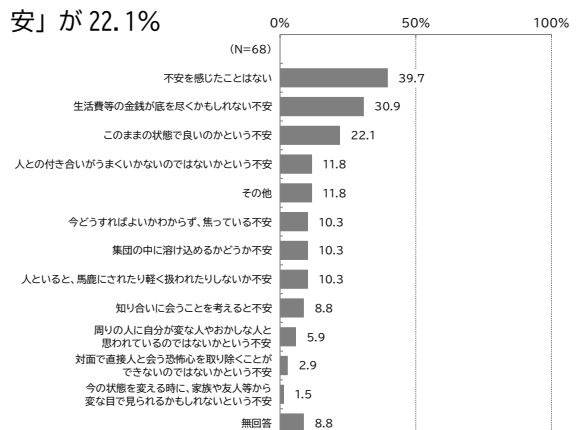
問 26 希望する相談方法

「直接対面しての相談」が 77.8%で最も多く、次いで「電話での相談」が 22.2%、「メールでの相談」が 16.7%



問 32 不安を感じること

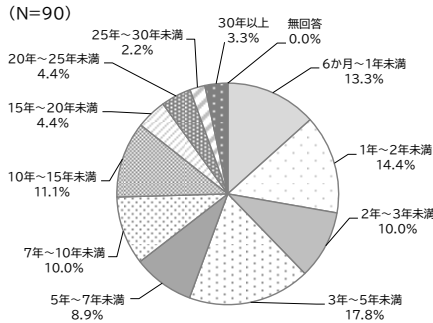
「不安を感じたことはない」が 39.7%で最も多く、次いで「生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安」が 30.9%、「このままの状態が良いのかという不安」が 22.1%



(3) 同居人がひきこもりの該当者

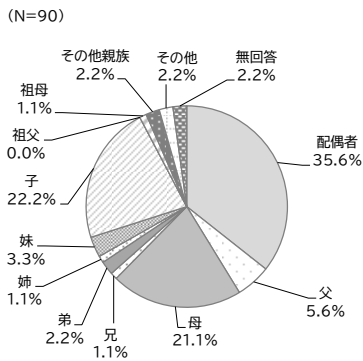
問 11 ひきこもりの状態の期間 (問 11 のうち、同居人に限定)

「3年～5年未満」が17.8%で最も多い。5年未満の合計では55.5%



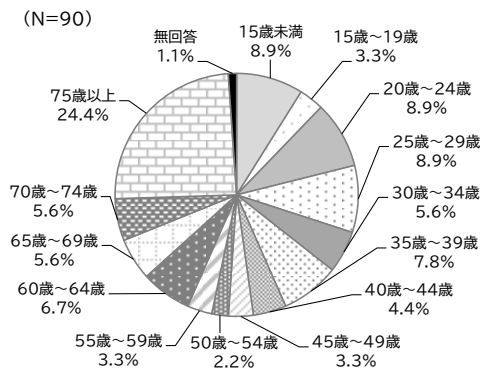
問 38 同居人との関係

「配偶者」が35.6%で最も多く、次いで「子」が22.2%、「母」が21.1%



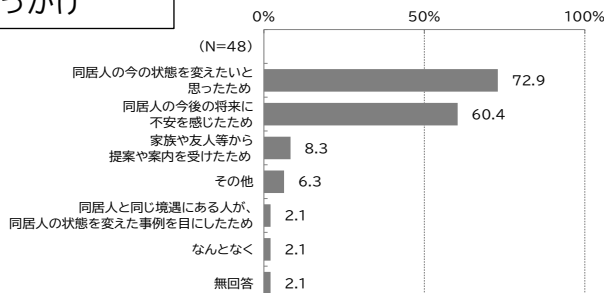
問 40 ひきこもりの状態になった頃の年齢

「75歳以上」が24.4%で最も多い。39歳以下の合計では43.4%



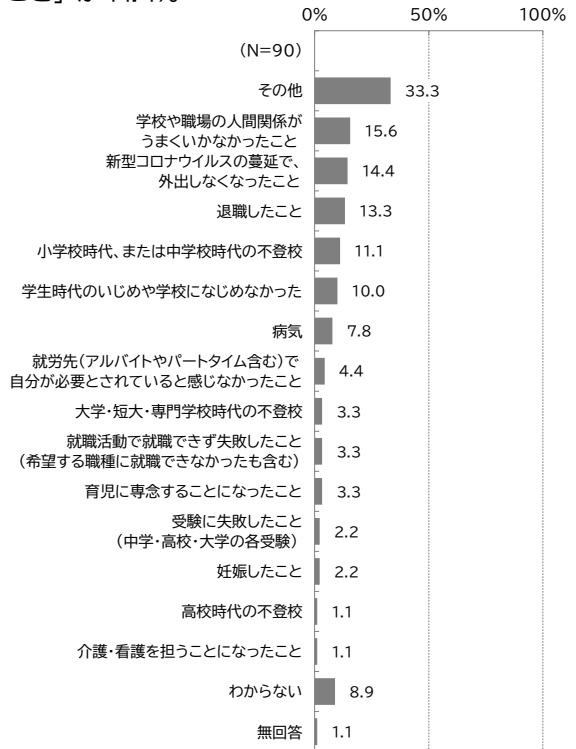
問 43 話や相談をしたきっかけ

「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」が72.9%で最も多く、次いで「同居人の今後の将来に不安を感じたため」が60.4%



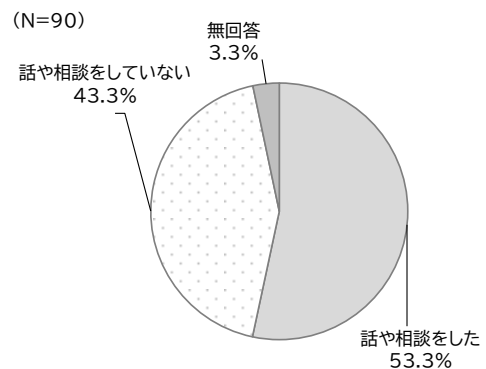
問 41 ひきこもりの状態になったきっかけ

「その他」が33.3%で最も多く、次いで「学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと」が15.6%、「新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと」が14.4%



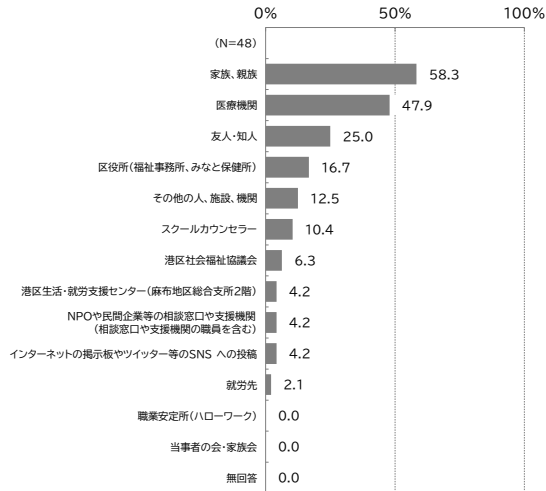
問 42 ひきこもりの状態について誰かに話や相談をしたか

「話や相談をした」が53.3%、「話や相談をしていない」が43.3%



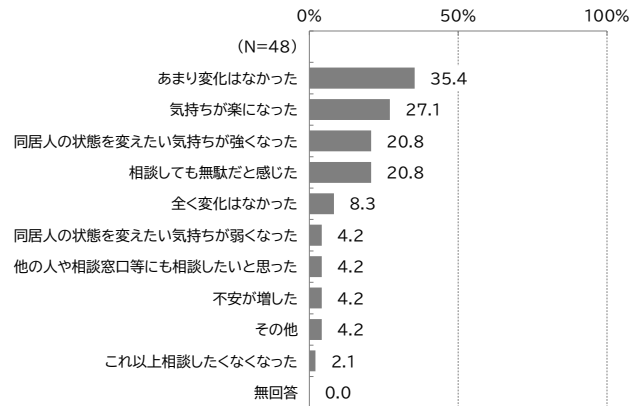
問 44 どこ（誰）に話や相談をしたか

「家族、親族」が 58.3%で最も多く、次いで「医療機関」が 47.9%、「友人・知人」が 25.0%



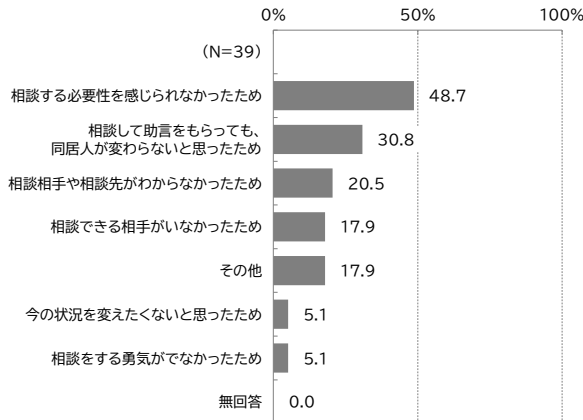
問 45 話や相談をした結果の心境変化

「あまり変化はなかった」が 35.4%で最も多く、次いで「気持ちが楽になった」が 27.1%、「同居人の状態を変えたい気持ちが強くなった」、「相談しても無駄だと感じた」がそれぞれ 20.8%



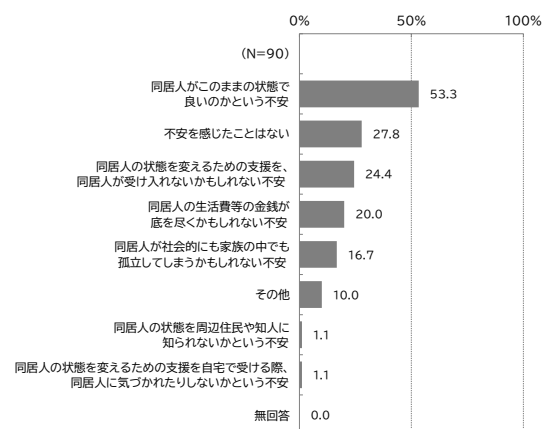
問 46 話や相談をしていない理由

「相談する必要性を感じられなかったため」が 48.7%で最も多く、次いで「相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため」が 30.8%、「相談相手や相談先がわからなかったため」が 20.5%



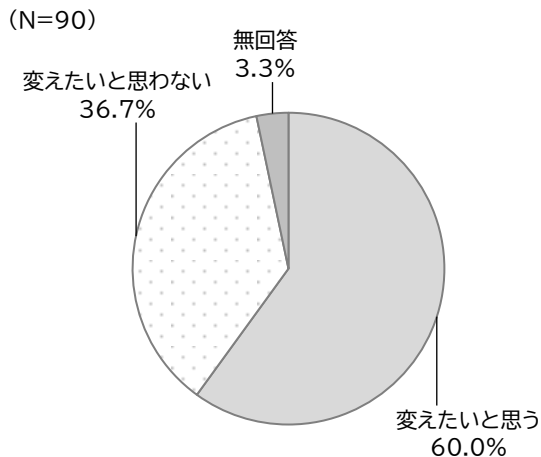
問 48 不安を感じること

「同居人がこのままの状態が良いのかという不安」が 53.3%で最も多く、次いで「不安を感じたことはない」が 27.8%、「同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れないかもしれない不安」が 24.4%



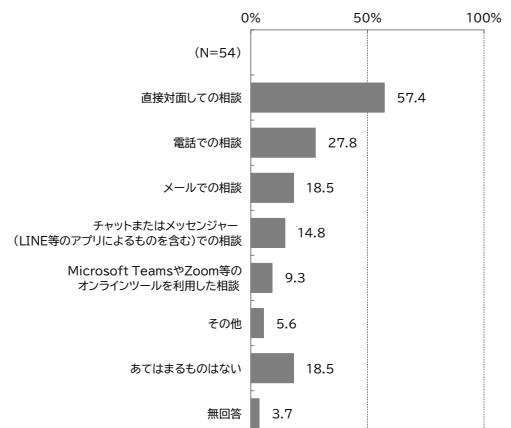
問 51 ひきこもりの状態にある同居人を変えたいと思うか

「変えたいと思う」が 60.0%、「変えたいと思わない」が 36.7%



問 53 希望する相談方法

「直接対面しての相談」が 57.4%で最も多く、次いで「電話での相談」が 27.8%、「メールでの相談」、「あてはまるものはない」がそれぞれ 18.5%



4. 類似設問の比較（上位4回答）

本調査では、ひきこもりの該当者が回答者本人の場合と、同居人の場合で類似した設問を設定しており、それぞれの立場による状況や心境などに関する回答結果を比較するため、「その他」「無回答」を除く上位4回答を整理した。

（1）ひきこもりの状態になった年齢、きっかけについて

設問の概要	回答者本人		同居人	
現在の就学・就労状況 本人…問6（問16で1を回答した人のみ） （回答数…68人） 同居人…問39 （回答数…90人）	1位	無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない） （回答件数：67件・98.5%）	1位	無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない） （回答件数：81件・90.0%）
	2位以下の回答なし		2位	学生（予備校生含む） （回答件数：8件・8.9%）
			3位以下の回答なし	
ひきこもりの状態になった年齢 本人…問17 （回答数…68人） 同居人…問40 （回答数…90人）	1位	75歳以上 （回答件数：24件・35.3%）	1位	75歳以上 （回答件数：22件・24.4%）
	2位	50歳～54歳 （回答件数：7件・10.3%）	2位	15歳未満 （回答件数：8件・8.9%）
		55歳～59歳 （回答件数：7件・10.3%）		20歳～24歳 （回答件数：8件・8.9%）
		65歳～69歳 （回答件数：7件・10.3%）		25歳～29歳 （回答件数：8件・8.9%）
	70歳～74歳 （回答件数：7件・10.3%）			
ひきこもりの状態になったきっかけ 本人…問18 （回答数…68人） 同居人…問41 （回答数…90人）	1位	退職したこと （回答件数：14件・20.6%）	1位	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと （回答件数：14件・15.6%）
	2位	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと （回答件数：12件・17.6%）	2位	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと （回答件数：13件・14.4%）
	3位	病気 （回答件数：8件・11.8%）	3位	退職したこと （回答件数：12件・13.3%）
		なんとなく （回答件数：8件・11.8%）	4位	小学校時代、または中学校時代の不登校 （回答件数：10件・11.1%）

ひきこもりの該当者としては高齢者が一定数含まれており、特に回答者本人に多い。ひきこもりの該当者が同居人の場合では30歳未満が多く、年齢層の幅がある。ひきこもりの状態になったきっかけとしても、ひきこもりの該当者が回答者本人の場合は退職や病気など、加齢と関わりがあるものが挙げられている一方、ひきこもりの該当者が同居人の場合では学校や職場の人間関係、不登校やいじめが挙げられているため、教育機関や職場等、多様な主体との連携が重要であることがわかる。

(2) ひきこもりの状態に関する相談状況について

設問の概要	回答者本人		同居人	
ひきこもりの状態について、 誰かに話や相談をしたか ※本設問の選択肢は2つのみ 本人…問 19 (回答数…68人) 同居人…問 42 (回答数…90人)	1位	話や相談をしていない (回答件数：41件・60.3%)	1位	話や相談をした (回答件数：48件・53.3%)
	2位	話や相談をした (回答件数：26件・38.2%)	2位	話や相談をしていない (回答件数：39件・43.3%)
ひきこもりの状態について、 話や相談をしたきっかけ 本人…問 20 (回答数…26人) 同居人…問 43 (回答数…48人)	1位	家族や友人等から提案や 案内を受けたため (回答件数：6件・23.1%)	1位	同居人の今の状態を 変えたいと思ったため (回答件数：35件・72.9%)
	2位	今の状態を変えたいと 思ったため (回答件数：5件・19.2%)	2位	同居人の今後の将来に不安 を感じたため (回答件数：29件・60.4%)
	3位	信頼度が高く、話や相談が できる人ができたため (回答件数：4件・15.4%)	3位	家族や友人等から提案や 案内を受けたため (回答件数：4件・8.3%)
	4位	なんとなく (回答件数：2件・7.7%)	4位	同居人と同じ境遇にある人 が、同居人の状態を変えた 事例を目にしたため (回答件数：1件・2.1%) なんとなく (回答件数：1件・2.1%)
ひきこもりの状態について、 どこ(または誰)に話や相談 をしたか 本人…問 21 (回答数…26人) 同居人…問 44 (回答数…48人)	1位	医療機関 (回答件数：11件・42.3%)	1位	家族、親族 (回答件数：28件・58.3%)
	2位	家族、親族 (回答件数：10件・38.5%)	2位	医療機関 (回答件数：23件・47.9%)
	3位	区役所 (福祉事務所、みなと保健所) (回答件数：9件・34.6%)	3位	友人・知人 (回答件数：12件・25.0%)
	4位	友人・知人 (対面で会ったことがある) (回答件数：4件・15.4%)	4位	区役所 (福祉事務所、みなと保健所) (回答件数：8件・16.7%)

ひきこもりの状態についての相談状況は、ひきこもりの該当者が回答者本人と同居人で異なっている。相談した人の動機は、回答者本人・同居人ともに今の状態を変えたいと思っている傾向にあり、双方とも現状を良しとしていない様子がうかがえる。主な相談先は医療機関や家族、親族が多く、続いて区役所や友人・知人となっている。

(3) 相談をした結果や、相談するにあたっての要望等について

設問の概要	回答者本人		同居人	
話や相談をした結果、どのような心境変化があったか 本人…問 22 (回答数…26人) 同居人…問 45 (回答数…48人)	1位	気持ちが楽になった (回答件数：11件・42.3%)	1位	あまり変化はなかった (回答件数：17件・35.4%)
	2位	全く変化はなかった (回答件数：5件・19.2%)	2位	気持ちが楽になった (回答件数：13件・27.1%)
	3位	相談しても無駄だと感じた (回答件数：4件・15.4%)	3位	同居人の状態を変えたい 気持ちが強くなった (回答件数：10件・20.8%)
	4位	あまり変化はなかった (回答件数：2件・7.7%) 他の人や相談窓口等にも相談したいと思った (回答件数：2件・7.7%) 不安が増した (回答件数：2件・7.7%)		相談しても無駄だと感じた (回答件数：10件・20.8%)
相談をしていない(またはしなかった)理由 本人…問 23 (回答数…41人) 同居人…問 46 (回答数…39人)	1位	相談する必要性を感じられなかったため (回答件数：21件・51.2%)	1位	相談する必要性を感じられなかったため (回答件数：19件・48.7%)
	2位	今の状態から変わりたくないと考えたため (回答件数：5件・12.2%)	2位	相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため (回答件数：12件・30.8%)
		相談できる相手がいなかったため (回答件数：5件・12.2%)	3位	相談相手や相談先がわからなかったため (回答件数：8件・20.5%)
	4位	今の自分を変えられないと思うため (回答件数：4件・9.8%)	4位	相談できる相手がいなかったため (回答件数：7件・17.9%)
相談相手や相談機関への要望 本人…問 25 (回答数…18人) 同居人…問 52 (回答数…54人)	1位	無料で相談できる (回答件数：12件・66.7%)	1位	医学的な助言をくれる (回答件数：25件・46.3%)
	2位	親身に聴いてくれる (回答件数：7件・38.9%)	2位	無料で相談できる (回答件数：24件・44.4%)
	3位	医学的な助言をくれる (回答件数：6件・33.3%)	3位	親身に聴いてくれる (回答件数：19件・35.2%)
	4位	精神科医がいる (回答件数：4件・22.2%)		精神科医がいる (回答件数：19件・35.2%)
		自分の名前を知られずに相談できる (回答件数：4件・22.2%)		
4位	公的機関である (回答件数：4件・22.2%) 自宅から近い (回答件数：4件・22.2%)			
相談相手や相談機関への希望する相談方法 本人…問 26 (回答数…18人) 同居人…問 53 (回答数…54人)	1位	直接対面しての相談 (回答件数：14件・77.8%)	1位	直接対面しての相談 (回答件数：31件・57.4%)
	2位	電話での相談 (回答件数：4件・22.2%)	2位	電話での相談 (回答件数：15件・27.8%)
	3位	メールでの相談 (回答件数：3件・16.7%)	3位	メールでの相談 (回答件数：10件・18.5%)
		Microsoft Teams や Zoom 等のオンラインツールを利用した相談 (回答件数：3件・16.7%)		あてはまるものはない (回答件数：10件・18.5%)

相談しない理由として、ひきこもりの該当者が回答者本人・同居人ともに「相談する必要性を感じられなかったため」が最も多い。相談先に対しては、回答者本人・同居人ともに「無料で相談できる」、「親身に聴いてくれる」、「医学的な助言をくれる」、「精神科医がいる」といった要望を持っており、相談方法は直接対面しての相談や電話での相談希望が多い。

(4) 現在の状況や将来への不安について

設問の概要	回答者本人		同居人	
本人（または同居人）の外出頻度 本人…問 27 （回答数…68 人） 同居人…問 47 （回答数…90 人）	1 位	普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける （回答件数：44 件・64.7%）	1 位	普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける （回答件数：47 件・52.2%）
	2 位	自室からほとんど出ない （回答件数：10 件・14.7%）	2 位	同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない （回答件数：17 件・18.9%）
	3 位	普段は自宅にいるが、自分の趣味に関する用事の時に週 1 回程度外出する （回答件数：8 件・11.8%）	3 位	自室からほとんど出ない （回答件数：12 件・13.3%）
	4 位	同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない （回答件数：5 件・7.4%）	4 位	普段は自宅にいるが、自分の趣味に関する用事の時に週 1 回程度外出する （回答件数：11 件・12.2%）
不安を感じる時があるか 本人…問 32 （回答数…68 人） 同居人…問 48 （回答数…90 人）	1 位	不安を感じたことはない （回答件数：27 件・39.7%）	1 位	同居人がこのままの状態が良いのかという不安 （回答件数：48 件・53.3%）
	2 位	生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安 （回答件数：21 件・30.9%）	2 位	不安を感じたことはない （回答件数：25 件・27.8%）
	3 位	このままの状態が良いのかという不安 （回答件数：15 件・22.1%）	3 位	同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れないかもしれない不安 （回答件数：22 件・24.4%）
	4 位	人との付き合いがうまくいかないのではないかと不安 （回答件数：8 件・11.8%）	4 位	同居人の生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安 （回答件数：18 件・20.0%）

現在の状況として、ひきこもりの該当者が回答者本人・同居人ともに「普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける」が最も多い。また、回答者本人は将来に対する不安を感じていないものの、同居人はこのままの状態が良いのかという不安を抱えているという結果から、回答者本人と同居人の間で現状に対する認識に大きな乖離があることが読み取れる。

(5) 自宅でよくしていること、交流状況について

設問の概要	回答者本人		同居人	
本人（または同居人）が自宅でよくしていること 本人…問 33 （回答数…68人） 同居人…問 49 （回答数…90人）	1位	テレビを見る （回答件数：49件・72.1%）	1位	テレビを見る （回答件数：59件・65.6%）
	2位	携帯電話・スマートフォンを使う （回答件数：30件・44.1%）	2位	携帯電話・スマートフォンを使う （回答件数：44件・48.9%）
	3位	パソコンを使う （回答件数：22件・32.4%）	3位	家事をする （回答件数：25件・27.8%）
本を読む（雑誌や漫画を含む） （回答件数：22件・32.4%）		4位	ゲームをする （回答件数：24件・26.7%）	
交流状況 本人…問 35 （回答数…68人） 同居人…問 50 （回答数…90人）	1位	近隣住民と挨拶を交わす （回答件数：23件・33.8%）	1位	家族と会話はするが、 家族以外の人と交流がない （回答件数：35件・38.9%）
		家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない （回答件数：23件・33.8%）	2位	近隣住民と挨拶を交わす （回答件数：12件・13.3%）
		通院で医師等と会話を する （回答件数：23件・33.8%）		家族以外の人と会うことは ないが、インターネットや SNS等を通じて人と交流して いる （回答件数：12件・13.3%）
	4位	趣味や遊びのために人と 会うことはある （回答件数：11件・16.2%）	4位	家族ともほとんど会話が ない （回答件数：8件・8.9%）
家族ともほとんど会話が ない （回答件数：11件・16.2%）				

ひきこもりの該当者が回答者本人・同居人ともに、自宅ではテレビを見たり、携帯電話・スマートフォンを使ったりしている回答が多い。他者との交流として、回答者本人は「近隣住民と挨拶を交わす」が最も多い。同居人は「家族と会話はするが家族以外の人と交流がない」に次いで「近隣住民と挨拶を交わす」が多いことから、地域との交流促進が重要といえる。

5. 分析を終えて

本調査は、区内6万世帯を対象とし、多くの方のご協力のもと、14,070世帯の方から回答を得ることができた。調査の結果を集計し、分析した結果、158世帯がひきこもりの該当者を抱えており、その実態及びニーズとして以下の傾向が見受けられた。今後、この結果について、区のひきこもり支援の施策に反映していく。

(1) 相談できる場の創出

本調査の結果、ひきこもりの該当者が本人である場合は半数以上、同居人である場合でも4割弱が相談していないという現状が明らかになった。

相談していない理由として、「相談する必要性を感じられなかったため」と思っていることなどが挙げられる。また、相談した結果として、「気持ちが楽になった」との回答が多いなど、一定の効果が認められているものの、「今の状態を変えたい」、「将来が不安」といった能動的な動機は同居人によるものであり、回答者本人は、「家族や友人等から提案や案内を受けたため」といった受動的な動機によるものであった。

相談相手や相談機関への要望については、「無料で相談できる」、「専門的な見地から助言をする」、「親身になって話を聞いてくれる」など、それぞれの人が置かれた状況や心境に合った行政サービスを適切に提供することが求められている。また、直接会って話をするだけでなく、電話やメール、SNS等を介した相談方法など、多様な相談窓口を用意しておく必要性もうかがえた。

以上の分析から、当事者のみならず、家族の方々も含めて気軽に訪れることができ、専門的な助言を受けられる相談の場を創出することが、「ひきこもり」の支援策として重要であると考えられる。それと同時に、自らの意思で現状を変えたいと思えるための環境づくりも必要であると考えられる。

(2) 多様な行政サービスの提供

本調査によって、ひきこもりの該当者と定義された人の属性は一様ではなく、高齢者は退職や病気によって現在の状態になっている一方で、若年層においては、学校や職場での人間関係などによってひきこもりの状態に至っていることが一定数あると確認された。このような「きっかけ」による人に対しては、教育機関や事業所等、多様な主体との連携により状況の改善を図れる可能性があるといえる。

ひきこもりの該当者は、自分の趣味に関するイベントや体を動かすイベントなどの社会活動への参加に対して一定の関心を持っていることが把握されており、このような活動や交流を通じて、ひきこもりの状態から脱することができる可能性もあると考えられる。

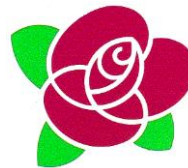
以上の分析から、ひきこもりの該当者がいる世帯の生活状況や求めているニーズは多様であり、それに応えるためには、様々な専門機関が連携し、適切な行政サービスを提供していくことが必要であると考えられる。



区の木 ハナミズキ



区の花 アジサイ



区の花 バラ



港区のマークは、昭和24年7月30日に制定しました。

旧芝・麻布・赤坂の3区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

刊行物発行番号 2023173-3761

社会参加に関する調査
調査報告書（概要版）

令和6年（2024年）3月発行

編集・発行 港区保健福祉支援部生活福祉調整課

東京都港区芝公園1-5-25

電話03-3578-2111（代表）